（東海 NOAH）

第１８号（平成１６年１２月発行）
東 海 ノ ア 協 定 事 務 局
(日本原子力研究所・東海研究所内)
Telephone：029-282-5801
E-mail：t-noah@popsvr.tokai.jaeri.go.jp

東海ノア通信 第１８号 をお届けします。

東海ノア協定事務局では、加盟事業所間の協力のもと、情報の共有化を積極的に推進する活動を進めております。

東海ノア協定に基づく活動状況は、適宜、ホームページでも紹介しております。アドレスは、http://tnoah.tokai.jaeri.go.jp/ です。

トピックス

☆活動状況

・第１１回安全協力委員会の開催

・第２７回活動推進幹事会の開催

・自主保安に関する点検協力活動

・安全教育に関する協力活動

・情報交換に関する協力活動

☆加盟事業所からの紹介

☆今後の活動予定

東海 NOAH：東海村（東海）、那珂町（N）、大洗町（O）、旭村（A）、ひたちなか市（H）

活動状況

○第１１回安全協力委員会の開催（平成１６年 10 月 20 日）

主な議題（1）平成１6年度上期の活動状況と下期の活動について
（2）その他

○第２７回活動推進幹事会の開催（平成１6年 12 月 10 日）

主な議題(1) 自主保安に係る点検協力活動(日本核燃料開発)の実施結果について
(2) 平成１６年度総合訓練について
(3) 東海ノア通信１８号の発行について
(4) 平成１６年度第３回自主保安に係る点検協力活動の実施について
(5) 平成１６年度第１回安全教育研修の実施結果について
(6) 平成１６年度第２回安全教育研修の実施について
(7) その他

自主保安に関する点検協力活動

（１）平成１６年度第２回自主保安に係る点検協力活動

・実施日時　　平成１６年 10 月 22 日（金）　９時 30 分～15 時 00 分
・事業所名　　日本核燃料開発株式会社（所在地：大洗町）
・点検協力者　3 名
　① 核燃料取扱主任者（所属：核燃料サイクル開発機構
　　東海事業所）
　② 防 火 管 理 者　（所属：日揮株式会社・技術研究所）

　③ 放射線取扱主任者　（所属：放射線医学総合研究所）
　　＊　他　事務局 2 名

・項　　目　　1)安全管理の基本方針
　2) 施設内及び他社で発生した事故・トラブルの
　　水平展開状況
　3) 緊急時における対応体制、訓練
　4) 教育訓練
　5) 規定、規則の整備
　6) 緊急事態の想定と対応
　7) 現場巡視

・点検協力活動の様子

事業所の対応者（右側）と意見交換を
行う点検協力実施者（左側）

施設の説明を受ける点検協力実施者

(2)　平成 16 年度第 3 回自主保安に係る点検協力活動

協定に加盟している事業所を対象に原子炉主任技術者、放射線取扱主任者、核燃料取扱主任者、衛生管理者、防火管理者等の実務経験のある専門家を派遣し、対象となった事業所の安全管理について様々な観点から確認、意見交換を通じて、その事業所の安全管理の向上に役立てるための活動を行っております。

今年度第 3 回目の活動は、１月に三菱原子燃料株式会社を対象に実施いたします。

・点検協力活動事前打合の様子

事業所の対応者（右側）と打合せを行う点検協力者（左側）

点検協力活動については、次号にて紹介いたします。

安全教育に関する協力活動

（１）加盟事業所の従業員等を対象とした安全教育研修の実施

① 日　時　平成 16 年 11 月 8 日（月）9 時 15 分～17 時 00 分

② 場　所　原研東海研究所　国際原子力総合技術センター

③ 内　容　・放射性物質のいろいろな性質

・核燃料サイクルと臨界安全の基礎

・放射線防護の基礎

・実習（各種放射線及び空気中の放射能濃度の測定）

④ 受講者　　18 名（7 事業所＋5 医療機関）

← 講義の様子

放射能測定の
実習風景 →

（２）加盟事業所で主催する講演会･公開講座等への参画

① 衛生講演会「これからのメンタルヘルスマネジメント」

講師：宗像恒次先生

核燃料サイクル開発機構
アトムワールド講堂で行われた講演の様子
２事業所　３名参加

平成１６年１０月４日

② 防災講演会「**地震災害時の危機管理について**」

講師：日野宗門氏

核燃料サイクル開発機構
アトムワールド講堂で行われた講演の様子
２事業所　３名参加

平成 16 年１１月９日

情報交換に関する協力活動

（１）加盟事業所が主催する総合防災訓練の視察

①サイクル機構 大洗工学センター（平成１６年１０月２８日）

５事業所から７名参加

事故概要説明を受ける参加者

防護活動訓練を視察する参加者

（２）加盟事業所相互の見学会

① 原研東海研究所「大強度陽子加速器建設施設等」の見学会

（平成１６年１１月８日）

５事業所から９名参加

東海研究所の概要説明を受ける参加者

ＪＲＲ－１展示館において説明を受ける参加者

② 核燃料サイクル開発機構東海事業所「再処理施設等」の見学会

（平成１６年１１月２５日）

１３事業所から２０名参加

東海事業所の概況説明を受ける参加者

地層処分基盤研究施設を視察する参加者

加盟事業所からの紹介

安全管理への取組み

東 北 大 学 金 属 材 料 研 究 所

附属量子ｴﾈﾙｷﾞｰ材料科学国際研究ｾﾝﾀｰ

東北大学金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター（以下センターと略す。）は、平成１６年４月１日に、その前身である材料試験炉利用施設（昭和４４年設置）を名称変更して発足しました。旧施設においては、毎年 2,000 人（延べ人数）の共同利用研究者を受け入れてきた安全管理体制が評価され、平成１６年３月に放射線安全管理功労者として、文部科学大臣より表彰を受けました。

当センターの安全管理体制は、共同利用部、放射線管理室、ホットラボラトリー管理室、アクチノイドラボラトリー管理室、研究部及び事務室から構成されており、緊急時における対応は、「通報連絡マニュアル」を作成して、判断・通報・行動を迅速かつ的確に行なえるよう整備しています。緊急時を想定した訓練については、消火訓練、救護訓練、防護訓練、防護資材の取扱訓練を含めた総合防災訓練と、抜き打ちでの通報招集訓練を実施し、対応状況の評価を行

い、問題点を提起・共有して、安全管理体制の更なる強化を目指しています。

また、放射線作業従事者に対する教育訓練は、職員及び協力会社員に対しては年１回、共同利用研究者に対してはセンターに来た初日に実施し、安全管理の徹底を図っております。

通常時のセンターの運営は、上記安全管理体制の下、関係法令、放射線障害予防規定、関連する内規・手引き等を遵守し、全職員参加のもと安全管理の向上に取り組んでいます。その代表例が、毎週開催している「定例会」と称する全職員参加の会議であり、この会議では、放射線予防委員会、放射性同位元素取扱計画書、及び核燃料物質取扱計画書の審議、安全衛生会議等を兼ね、情報の交換と共有を図り、当センターにおける安全管理の要となっております。

当センターは昭和４４年設立以来、多くの方々のご協力を受け現在に至っています。特に安全管理に関しては様々な機関より、ご指導や過去における事例の情報提供を受け、当センターの運営に反映させることにより、安全管理が実現していると言っても過言ではありません。しかしながら、現状に慢心することなく、これまで以上の安全管理を実現すべく努力していく所存ですので、今後とも関係各機関のご指導・ご協力をお願いする次第です。

今後活動予定

・平成１６年度第３回自主保安に係る点検協力活動・・・　１月
・第２回 安全教育研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２月
・活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３月
・安全協力委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３月

編集後記

東海ノア通信も第 18 を発行する運びとなりました。

東海ノア協定が締結され、まもなく 5 年が経過します。今年度下期においても更なる活性化に向けて、次年度活動計画を構築したいと考えております。東海ノアに関するご意見、ご要望等について、何でも結構ですので事務局までお寄せ下さい。

(東海ノア協定事務局)